

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600213		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホーム あかつき防府		
所在地	防府市大字江泊1790番地		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年3月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の中で、一人ひとりの状態を考察し、役割を持ってもらい、じっとしていることの不安・苦痛を察することで日々の生活に生きがいを感じていただけることをテーマに支援を心掛けている。特に外出することを日常とし、積極的に地域社会とのかかわりを持つ努力をしている。観光地やイベントへの参加だけでなく、日常生活のスーパーでの買い物、入院者のお見舞い、理髪店での散髪、庭の草取り、日向ぼっこ、空いた時間のドライブなど身体介護に偏らない支援という形でサービスの心掛けている。職員には一人ひとり目標を持って、外部研修、施設内研修の参加以外にもリーダーが指導者として自己研鑽を心掛けており職員一人ひとりの個性を尊重しながらチームとして成立する心豊かな認知症介護を目指している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍により利用者の理解できない所で生活空間が狭まり、その閉じこもりがちな生活の中、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援している。今できる事に着目し、できて自信になる事を大切にしている。食事準備・掃除・朝の活動から昼の活動・夕食後の休息の流れの中で役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。内部研修は併設施設との合同研修と事業所内研修が年間計画で体系付けられている。事業所研修の企画運営を担当職員に任せる事で職員や対応も変化してきたと管理者は捉えている。その結果、併設施設との合同研修の中で二つのテーマについて事業所職員が企画運営するようになってきた。また現場で考えた実践が失敗しても管理者は否定せず、先ずは受け入れる姿勢、コロナ禍を言い訳にしない思いで人材育成に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 ( 花水木 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基本に各ユニットにて自分達がしたい、してもらおう事で安心できる理念を考え業務に携わっている。	事業所理念をもとに各ユニットが策定した理念を各々掲示し、ケア実践上の道しるべとしている。職員はユニット会議等の中で事例を通して理念を共有し、年度末に達成度を検証し更新している。又、職員も理念を踏まえ目標管理シートを策定して、年1回の個人面談でその達成度を検証している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で格段に減ってきてはいるが定期的な清掃活動(地域・小学校)・避難訓練へ参加はしている。また地域の小学校の生徒さんとの交流 中学校の生徒さんの職業体験などがあげられる。	自治会には加入しているが、コロナ禍による活動自粛のため、地域清掃や散歩の際に近隣のグラウンドゴルフ参加者と挨拶を交わす等の相互交流は続いている。又、近隣小学校から花の苗の寄贈を受けたり、県内外の大学や専門学校から実習生を受け入れる等、世代間交流も続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響もあり、自施設から地域への発信は出来ていない。ただ、入居申し込みや相談の際には認知症の事についても話をさせてもらい理解に努めている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については、毎回事前に職員に意義について説明をしている。昨年度は各職員にて評価も行ってもらったが今回は出来ていない。	例年全職員が自己評価欄に記入後、管理者が集約するが、今回は管理者が交代した為、管理者のみで集約をしている。事業所は前回外部評価結果に基づきリスク管理面では、事業所研修で応急救護・事故防止を、併設施設研修でAED・緊急時対応を実施し、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年はコロナの影響強く当事業所での運営推進会議は開催は実施できておらず、文章にて状況報告に留まっている。	会議は併設施設と合同で定期的開催し、最近ではコロナ禍のため書面会議となっている。事業所でのコロナ感染状況を主とした運営情報や課題等を管理者がまとめ、併設施設事務所による意見依頼文を添えて、参加予定の家族代表・民生委員・市担当者に会議資料を送付している。	利用者のプライバシー確保や双方向の意見交換等の観点からも原則事業所単独の開催を期待したい。又コロナ禍でもあり、参加していない家族と事業所運営の情報共有が不十分である。他事業所の運営推進会議の情報収集等、情報共有の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。

自己	外部	項目（花水木）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へはその都度の連絡や何らかの申請の際には行って状況を聞かれた時に報告、相談している。その他、包括や住宅からも状況確認や相談された際には伝えている。また、GH協会に参加し日頃より連絡を取り会議、研修にも参加している。	市担当課とは日頃の相談・報告の他、運営推進会議の事前照会で運営情報を共有している。会議の開催報告書は担当課に併設施設事務所から報告し、連携を図っている。又行政による新型コロナウイルス感染症支援対策の手続きや認知症サポーター養成講座への参加等にも取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止については、3ヶ月に1度と定期的に会議を行い現状確認と見直しを行い委員会資料はユニット内研修へと繋いでいる。また委員会メンバーは毎年入れ替えて配置している。(いずれは全員に委員会役員が回るようにする)	三か月毎の身体拘束防止委員会や併設施設・事業所各々主催の年2回の研修会等を通し、職員は「拘束をしない」必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対し職員間で注意し合える関係性もある。ユニット玄関は夜間と日中職員一人の時のみ施錠している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は2ヶ月に1度と定期的に会議を行い現状確認と見直しを行い委員会資料はユニット内研修へと繋いでいる。また委員会メンバーは毎年入れ替えて配置している。(いずれは全員に委員会役員が回るように)		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年には成年後見人制度を必要とする入居者の方が居られず話す、また研修を行う機会がなかった。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には充分時間を取りご家族の意向を説明の都度確認をするとともに、不明な点や不安な事については時間を掛け説明し、ご理解していただき納得されたのち契約を行ってもらう。		

自己	外部	項目（花水木）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や地域の第三者委員などの苦情相談体制を契約時に説明すると共に、家族に関わる際には不安や心配事は無いか聞くようにしている。家族より何かあればその都度、現場にも伝え、会議の議題として挙げて改善を図った。	家族の要望は窓越し面会・電話連絡・介護計画更新等を通して把握し、それを職員は毎月のユニット会議等で共有して迅速な対応に努めている。コロナ禍による活動性の低下に伴い転倒骨折を心配した家族から骨密度向上の要望があり、事業所は活動性改善に配慮した支援に取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で各職員が担当者の状況報告も加え業務等への意見を言う機会を設けている。また、その意見については反対するのではなく尊重し業務等へ反映できるように話し合う。個人的に相談、意見して来た場合にも本人の意見を尊重し受け入れるようにしている。	毎月のユニット会議、随時又は年1回(目標管理シート)の個別面談等を通し管理者は職員意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援を行っている。コロナ禍に伴う業務調整、子育て支援に向けた勤務調整、変動的な帰宅願望のある利用者への波長合わせ等の例がある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々のスキルや実績、自宅介護、育児などの生活環境に応じ雇用形態、勤務体制を配慮している。また、スキルアップに向けた雇用形態も年に1度の自己評価と面談にて柔軟に対応するようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修への参加はコロナにて出来ない。認知症実践者、実践者リーダーも申し込むもコロナにて参加できず。施設内研修については定期的に併設施設(特養)と合同で参加している。本年度は、グループホームからも開催を2度実施している。	内部研修は併設施設との合同研修と事業所内研修が年間計画で体系付けられている。事業所研修の企画運営を担当職員に任せる事で職員の対応が変化してきたと管理者は捉えている。現場で考えた実践が失敗しても管理者は否定せず、まずは受け入れる姿勢で人材育成に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会への参加により、事業所同士の状況報告、意見の交換の機会はあり、研修等にも参加している。		

自己	外部	項目 ( 花水木 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には環境に慣れてもらう事、信頼関係の構築に努める為に定期的な声掛けや本人の訴え、要望、話を聞く時間を作った。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みの際、入居が確定した時点で御家族の要望、意向等を伺いそれに沿ったサービスを提供している。また家族との話し合いの中で説明を行い、自施設で行える最善を提示し理解を得るようにした。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに基づき、御家族の要望、意向等を伺いそれに沿ったサービスを提供する。本人には面会時に趣味嗜好、昔していた事を確認している。また、入居後に様子を見ながら改善点あれば見直しを行った。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の尊厳を大事にした上で関わりを持ち、入居者同士関わりが持て、馴染み関係が築けるように配置(食堂席)を配慮している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員一人一人が入居者の担当を持つ事で、家族との関係も持ち、その都度近況の連絡、報告をする事で家族と共に入居者本人を支え合う関係性を築いている。		

自己	外部	項目 ( 花水木 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響にて以前は馴染みの人、知人も尋ねて来られる事あったが、今は殆どない。馴染みの場所もコロナの状況によりドライブ(車中より)見る程度になっている。	家族には介護計画更新時等、適宜利用者の近況報告をしている。帰宅願望の強い利用者との窓越し面会や手紙・電話の取り次ぎやドライブ等、馴染みの場所・馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に関わり、利用者の笑顔・家族の安心等、気持ちに寄り添った支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士なじみの関係が作れる食堂席の配置や、職員が間に入り入居者同士の橋渡しを心掛けている。また、関りが持てる機会(レクや行事)を提供している。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも併設の特養に入居された際には会いに行ったり、御家族が来られた際には声を掛け話をする機会がある。他施設に行かれても御家族から近況や不安な事を相談される事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは入居前の面談にて本人の意向を必ず伺い入居後も担当が本人と関りを持ち改めて意向を伺っている。その後は担当以外の職員も関わりながら全職員で様子観察しその都度本人の意向を確認している。	職員は利用者とはゆっくり話す中で深く関わりを持ち、思いを汲み取ってユニット会議・介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。趣味の写経や編み物を日課としたり、意欲の出にくい利用者を家事のできる利用者の側で出来そうな事から支援する等、本人本位に配慮している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを送りとして全職員が生活歴、以前の暮らし方、環境、家族構成等を確認出来るように把握し本人が施設で望む暮らしが実現できるように努めている。		

自己	外部	項目（花水木）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前のアセスメントに基づき、本人との関りや、施設での生活習慣を観察しながら、施設の中での本人の望む暮らしの実現に努めている。また、御家族からの情報も全職員で把握、共有し環境作りをしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当にて1ヶ月度に統括、評価をモニタリングにて行っている。また、ユニット会議にて必要事項は職員全員で検討し、計画作成の際には必ず御家族にも近況報告し意向を確認している。	家族には事前に「短期目標等の見直しに伴うアンケート」で意向確認をし、関係職種の意見も反映した原案をユニット会議で検討して本案としている。担当職員が毎月モニタリングを行い、3ヶ月を基本に計画を見直している。帰宅願望の強い利用者に週2回窓越し面会を立案した例がある。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年より記録事項等がタブレット、電子化し何時でも記録の打ち込み、閲覧ができる様になり職員同士での情報共有を図っている。申送り事項あれば、業務日誌、申送りノートに打ち込み、記載し検討を要する場合にはユニット会議にて検討している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ前には併設、敷地内に特養、養護、通所デイサービスと多職種からも必要によっては積極的に協力を図り取り組んできたが、現在は協力体制あるも依頼など減ってきている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前には行き付けのスーパー、理髪店、かかりつけの病院（歯科や眼科なども）、文化財や道の駅へ定期的に行っていたが、現状は減ってきており感染が落ち着いた際などの外出でドライブにて車中より見る程度である。		

自己	外部	項目（花水木）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に内科については数名の入居者の方しか現在もかかりつけ医にて定期的受診を行っているが、大半の入居者の方は御家族に説明しコロナなどの感染リスク、予防の為に委託医の方へ変更し対応している。他科受診については、その時の状況に応じて検討し受診を行っている。	利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。協力嘱託医から週1回の訪問診療、協力歯科医は適宜往診・受診可能である。専門医の受診は主に事業所が協力している。又、常勤2名の看護師の配置もあり、適切な医療が受けられる体制を築いている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師在中にて日々の健康管理、様子観察で異常、問題、疑問があればその都度連絡、報告している。看護師不在の場合も、併設の特養看護師に急変時等あれば連絡、相談し協力体制を取っている。状況に応じて訪看も依頼している(その場合は御家族に連絡し了承を得ている)		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、医療機関とは日頃より連携を取り入院時、入院後にも現在は入院訪問出来ないで連絡を取り状況報告を確認している。その上で施設として退院時の受け入れ体制を作っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期(看取り)、医療行為時の対応等については入居時に御家族に説明し意向を確認している。重度化についても、要介護度が4、5になった場合等には御家族に報告説明しその後の対応(特養や他施設への移行も含め)を検討している。	利用開始時に基本的な方針を説明し了解を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には関係者で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。予め介護老人福祉施設等への申し込みの検討や協力医との医療連携をもとに入院による十分な医療支援体制に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止にて委員会、ユニット研修を適時開催し、応急救護についても、施設内研修への参加、ユニット内研修を実施している。転倒予防は入居者一人一人の状態を確認し転倒リスク高い入居者には必要に応じ福祉用具の検討し使用している。	急変や事故発生時に備え事故報告書の活用や事故防止委員会での検証を通して事案に対応している。各職員の初期対応力の標準化を図るべく、リスク管理に関して事業所研修で応急救護・事故防止を、併設施設研修でAED・緊急時対応を年間計画で体系付け、実践力の習得に努めている。	



自己	外部	項目 ( 花水木 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(年に2回)実施している。地域との協力体制についてはマニュアルあるも、一度地域の避難訓練(水害・津波)参加したがその後は、コロナもあり出来ていない。	消防署指導のもとに夜間想定、利用者も参加して火災・水害を想定した避難訓練を併設施設合同で年2回行っている。ハザードマップでは非該当地域だが、併設施設が地域の避難場所で、又コロナ禍前に地域の避難訓練に参加した経緯もあり、自治会等を通して協力体制の構築に努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇について施設内研修、ユニット内研修を行っており、現状での入居者の方に対しての言葉使い、対応の仕方について見直してもらう機会を作っている。また、プライバシーや羞恥心にも配慮し異性による介護に抵抗がある場合には出来る限りにて同性にて対応出来るようにしている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場で気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気作りに努めている。過半数が男性職員であり、入浴・排泄面ではできる範囲で同性介護に配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意向は関りや会話の中で汲み取れる様にしており、その際には時間を掛け相手の話を聞いている。また自己決定も機会があるように入浴時には服を選んでもらったり、飲み物でもどちらが飲みたいのか伺っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課として食事、おやつの時間や入浴は決まっているが欲しくない時や今お風呂に入りたい際には本人のペースに合わせ提供している。そのほかの時間も基本、入居者に任せ趣味嗜好をされる方、家事手伝いをされる方、ゆっくり部屋や共同スペースでテレビ視聴される方も居られる。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ状況により本人の意向を確認しながら行っている。出来る方はご本人で、助言、支援が必要な方でも服等を選べるように声掛けしている。		

自己	外部	項目 ( 花水木 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好を確認し提供をしている。以前は外食やお弁当を頼む際に本人の食べたい物を選んで食べる機会もあったが最近ではなかなか出来ていない。食事の準備は、現在業者からの配食を厨房を通して提供しているので、台拭きやお盆拭き等を入居者の方にして頂いている。	献立は併設施設の栄養士が立て、食事は委託業者からの配食で届けられる。年一回の嗜好調査等で好みを反映し、年に数回のおやつ作り等、楽しみとなる工夫もある。利用者も台拭き等、できる役割を担っている。食卓の高さ調節・個別テーブル等、食事の姿勢にも配慮している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が作っており、食事摂取・水分摂取の記録等は職員が行っている。体調不良や摂取状態により栄養士に相談、検討し食事形態の変更を行っている。また食器の変更なども状態を見て行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・夜間の入れ歯洗浄は実施しており、口腔内の状態もチェックするようにしている。歯の状態により協力歯科医の山野医院に受診、若しくは往診をお願いし歯の健康管理を行っている。また口腔ケアの研修にも参加している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人一人に合わせたトイレ介助を行い、日中はトイレでの自力排泄を促す為に適時(排泄チェックにてパターンを把握し)トイレ誘導している。夜間は寝る事を重視する為に入居者によっては紙オムツ対応している。	排泄記録表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導を基本としている。尊厳やプライバシーに配慮してケアに関わり、夜間は良眠を優先した紙オムツ対応や体調不良者にポータブルトイレの設置、夜間にセンサーマットを設置する等、利用者の状態に応じた排泄の自立支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫は栄養士にて献立を作成しており、状況により相談し食品提供している。それ以外では大半の人が主治医と相談し下剤服用にて排便コントロールしている。水分は1日基本1.5ℓを目安に摂ってもらっている。運動は日課にて朝食後にテレビ体操を実施している。		

自己	外部	項目 ( 花水木 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日は決めて声掛けしているが入居者の意向や状態により入浴したい時に実施したり、入浴日を変更している。入浴の仕方も時期や状態に合わせてシャワー浴や足浴も行っている。	週2回の午前又は午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ柔軟に対応している。利用者状態により「浴槽の縁をまたがず椅子感覚で移乗して入浴」できる介護浴槽や据え置き型浴槽での入浴の他、シャワー浴・足浴等の対応もしている。冬至に柚子湯を提供することもある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前は夜間の安眠の為に日中趣味等の活動を心掛けていたが現在は高齢化にて、入居者の方の負担がない様に昼寝など本人の意向に合わせて休んでもらっている。その為基本的な就寝、起床時間あるも強制はせず本人のペース、パターンに合わせて寝られる様に支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師、現場職員にて管理、確認を行っている。薬情はファイルに綴っており常時、作用、副作用が把握出来るようにしている。服薬による状況変化は、まず看護師に報告し次に往診時等に主治医へ看護師より報告、相談し検討した上で薬調整している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方の役割は関りの中で見出し状態に合った家事手伝い等をお願いしている。楽しみごととしては本人の趣味を入居時のアセスメントより職員にて把握し本読みや塗り絵等を行ってもらっている。また、回数は少ないが気分転換、季節感を感じてもらう為に外出(ドライブ)実施した。	利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。朝食準備・掃除・朝の活動から昼の活動・夕食後の休息の流れの中で役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は特にコロナ感染が酷く立案、企画あったものの、数回しか外出支援出来なかった。	コロナ禍で外出は菜園の水まき、隣接のグラウンドゴルフの見学、受診、桜見物ドライブ等を行っている。コロナ禍の収束状況により、従来実施していた季節の外出行事や地域行事等で「非日常」を楽しんだり、自宅への一時的な帰宅や外食等で気分転換を図りたい意向もある。	

自己	外部	項目 ( 花水木 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナにて外出頻度も減り、職員と一緒に外出して嗜好品や日用品をご本人で支払って頂く機会もなくなった。現在、殆ど職員、御家族にて日用品補充、代買いをを行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は携帯を所持している入居者の方も居られ定期的に電話にて連絡を取られている。また御家族から連絡があり本人と話す機会もある。手紙のやり取り御家族からあり、施設からは年賀状を送る程度。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付け、入居者さんと作った壁面飾りや写真を貼っている。また生活の場としての共用の場所は安全で使いやすいように配置や張り紙などを行っている。コロナもあり感染予防にて室温には気を付け、換気は適時行っている。	屋内外の花や季節行事の飾り付け、習字等の利用者が作った壁掛け作品等で季節の移ろいが感じられるよう配慮している。利用者も洗濯物畳み・食事準備等を手伝い、生活感がある。利用者により「浴槽の縁をまたがず入浴」できる介護浴槽の利用等、自立支援に向けた環境整備もしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの関係が作れるように配慮して、テーブルの配置・席替えなど行っている。また、お一人が良い方にはテーブルを一人用を使用し席を配置している。話がある場合には職員が椅子などを移動し一緒に過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に施設内見学し、居室の説明をさせて頂き馴染みの物(椅子や机、タンス、鏡台等)を持って来て頂く。また状況により混乱や危険性のあるものは必ず御家族に相談し預かるか持って帰って頂き入居者の方が安心して過ごせる様にしている。	居室にはベッド・筆筒等が備え付けられている。鏡台等、使い慣れた物や家族写真等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、体調不良者にポータブルトイレを設置している。	

自己	外部	項目（花水木）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した共同生活が少しでもできる環境づくりには配慮している。障害物や混乱を招くものは極力視覚外に排除し、一人でもトイレに行ける・自分の部屋に戻ることができる等、分かりやすい生活環境を作ることを心掛けている。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 ( 花梨 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基本に各ユニットにて自分達がしたい、してもらう事で安心できる理念を考え業務に携わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で格段に減ってきてはいるが定期的な清掃活動(地域・小学校)・避難訓練へ参加はしている。また地域の小学校の生徒さんとの交流 中学校の生徒さんの職業体験などがあげられる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響もあり、自施設から地域への発信は出来ていない。ただ、入居申し込みや相談の際には認知症の事についても話をさせてもらい理解に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については、毎回事前に職員に意義について説明をしている。昨年度は各職員にて評価も行ってもらったが今回は出来ていない。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年はコロナの影響強く当事業所での運営推進会議は開催は実施できておらず、文章にて状況報告に留まっている。		

自己	外部	項目（花梨）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へはその都度の連絡や何らかの申請の際には行って状況を聞かれた時に報告、相談している。その他、包括や居宅からも状況確認や相談された際には伝えている。また、GH協会に参加し日頃より連絡を取り会議、研修にも参加している。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のための委員会は毎年メンバーを入れ替えてマンネリ化しないよう研修や会議を開催している。また虐待防止の活動にも取り組んでいる。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止のための委員会発足と同時に虐待防止の活動にも取り組んでいる。ユニット会議での研修課題にもあげ、職員全員で勉強し防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は該当する入居者がいないため、今後の支援に向けて制度の詳細について学ぶ機会を設けていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には充分時間を取りご家族の意向を説明の都度確認をするとともに、不明な点や不安な事については時間を掛け説明し、ご理解していただき納得されたのち契約を行ってもらう。		

自己	外部	項目 ( 花梨 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や地域の第三者委員などの苦情相談体制を契約時に説明すると共に、家族に関わる際には不安や心配事は無いか聞くようにしている。家族より何かあればその都度、現場にも伝え、会議の議題として挙げて改善を図った。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で各職員が担当者の状況報告も加え業務等への意見を言う機会を設けている。また、その意見については反対するのではなく尊重し業務等へ反映できるように話し合う。個人的に相談、意見して来た場合にも本人の意見を尊重し受け入れるようにしている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	スタッフの中で自宅介護や育児に携わっている職員がいる為その状況をスタッフ全員が理解する事で協力する姿勢が出来ていると考える。職場、家庭でのストレスを職員間で理解する事が結果的に入居者に対するより良いサービスに繋がる事を職員全体で理解するよう努力している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員を迎え、教育担当を指名し教育に当たってもらった。日々のOJTの重要性を職員全員が実感するとともに先輩職員としての介護に対する意識向上にもつながった。また、個人の目標管理シートを作成し、年度の目標を明確にすることで自己啓発につながっている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会への参加により、事業所同士の状況報告、意見の交換の機会はある。研修等にも参加している。		



自己	外部	項目 ( 花梨 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前アセスメントを基に初期段階で基本情報を積み上げ、入居者本人を職員が理解できるかどうかが良い質のサービスの提供に繋がると考えている。その為、計画作成担当者が職員それぞれの意見を集約するように心掛けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が確定した段階で、ご家族の要望・意向等を伺い、それに沿ったサービスが提供できるよう努めている。また、ご家族との話し合いの中で説明を行い、自施設で行える最善を提示し理解を得るようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族、ご本人の意向を面談時に行い、当施設の現状の支援をまず家族に説明しながら日常生活が適合できるか否か、また自施設での対応ができるか否かを入居判定会議にて検討している。他職種の協力が必要な場合は可能な限りお願いして協力を得ている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には常に共同スペースで過ごして頂く様に配慮している。その際 何かしら作業・役割・手作業・会話の生まれる環境を作ること心掛けている。また、家事への参加として洗濯物たたみ、掃除、草取り、畑仕事などを一緒にするようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会が制限されており、以前のように面会をしていただくことが難しいが、計画作成担当者・管理者が定期的にご家族へ支援経過や写真を活用して近況を報告し、ご家族にも協力していただける支援と一緒に考えるようにしている。		

自己	外部	項目 ( 花梨 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は生まれ故郷でのご自宅探索・なじみのあるお店に行ったり等していた。外出をすることが難しい現状ではあるが、気分転換を兼ねて昔なじみのある場所近辺をドライブしたりするようにしている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性で席を配置はしているが、極力みんなが顔が見える距離にいられるように配慮している。入居者同士のトラブルもあるが、そこに職員を配置することでよい関係が保てるように配慮している。その為入居者同士での支援の様子が伺えたりしている。」。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入所していたころのお写真や寄せ書きなどを持参しご家族とも関係を維持するとともに相談があれば対応するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援経過に毎月担当職員がモニタリングとして評価を実施している。計画作成担当者はその内容をチェックし、介護計画の修正に役立てている。またユニット会議の席上では毎回個人別に現状の問題点や支援計画・アイデアの聞き取りを行うことにして、日常の支援に役立てている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中でのキーワードをどの職員も把握・共有するようにし、また新しい発見を日常業務の中で伝え合うようにしている。ご家族がいらっしゃった時は、新しい発見をお伝えするとともに生活歴をお聞きし、さらに入居者が共感する話題の発掘に努めるようにしている。		

自己	外部	項目 ( 花梨 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の支援経過にその人の心情観察なども加えることで常に安心して過ごせる状態を模索し、職員全員で情報の共有を意識するように心がけている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月毎支援経過を総括し、評価をしモニタリングを実施している。ユニット会議で計画作成担当者が意見などの取りまとめを行っている。介護計画書の更新時にはご家族に対し説明を行い、遠方のご家族には書面を郵送で送るほか電話などでご意向の確認なども行っている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士の日常業務での情報交換が大切と考えているが、支援経過記録や申し送りノートでの確認・情報の共有もあわせて活用している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしい生活を尊重し、できるだけ希望に沿った支援を行うために、場合によっては他事業所のあらゆる職種のスタッフに関わってもらうなど、柔軟に対応できるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域での生活を実践するために、住んでいた場所・記憶に残る施設近辺への外出(現在はコロナ禍の為ドライブのみ)を常に日常の生活の中に取り入れていくようにしている。		

自己	外部	項目（花梨）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の杉山医院による往診をしてもらっている。当日に個人のバイタル表と相談事項を記入し、医師の助言をもらうようにしている。また従来からのかかりつけ医の受診を希望されているご家族には職員が付き添い適切な健康状態の報告と医師への相談をするように心がけている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談して入居者の健康管理に役立てている。バイタルチェック・様子観察による健康状態の把握、服薬管理、受診対応、医師への連絡・報告などを行っている。状態によってはご家族と連携を取りながら専門医への受診も行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医・かかりつけ医には定期受診で相談することはもちろん、入院の際はご家族の都合も加味しながら援助するようにしている。家族の対応が困難な場合も施設側が洗濯物やオムツ購入などの対応も行い、早期退院に向けて協力することとしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期における家族のご意向を聞くようにしている。ただし、食事の経口摂取が出来なくなったときは退去の扱いとなることを説明している。入院後3か月はお部屋を確保する事としており、退院後の施設での生活の再開には最大限協力する事としている。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	行動制限をしない反面、転倒事故の危険は常にあり。リスクについては普段から会議にて職員間で対応を検討している。その他事故の際は報告書を作成し、対策・対応にて実行している。ユニット研修、施設内修では看護師による応急対応の研修を受け緊急対応の訓練も実施している。		

自己	外部	項目 ( 花梨 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(年に2回)実施している。地域との協力体制についてはマニュアルあるも、一度地域の避難訓練(水害・津波)参加したがその後は、コロナもあり出来ない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いの点では、充分出来ているとは言えず危険回避の為と言いながら強い口調になってしまう事がある。但しユニット研修でも問題を取り上げたりする事で従来よりは意識するようになったと考えている。また支援のストレスを職員全員で理解し冷静で業務携わる環境作りを心掛けている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から入居者が望んでいることを常に推測するように心がけている。また、本人と関わることで馴染みの関係を築き、要望・希望を言いやすい雰囲気を作っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間をはじめとして、日常生活はほぼ時間が決まっている。ただ強制するのではなく誘導・案内する姿勢は崩さないようにしている。誘導の技術を磨く事で業務もスムーズに出来るのだが、難しいときはその人のペースに合わせて、無理強いをしないというルールにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がその日の気候に合わせて準備するが、選択できるよう配慮している。髪留めや化粧水も本人の意向により準備したりしている。		

自己	外部	項目 ( 花梨 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好調査は入所時の行っているが、みんなで一緒に食事をするという習慣作りを定着させている。食事は給食施設から毎回届けていただいている。出来る方には台拭きなどのお手伝いをいただいている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が作成しており、食事摂取・水分摂取の記録などは職員が行っている。体調不良や摂取状態により食事形態の変更や食器の変更なども行っており、都度状況に合わせた対応が出来ている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・夜間の入れ歯洗浄は実施しており、口腔内の状態もチェックするようにしている。協力歯科医の山野医院にも受診したり、関係機関の研修にも参加し口腔ケアの勉強もしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中・夜間と入居者に合わせたトイレ誘導を実施しておりトイレでの自力排泄を心掛けている。利用者一人一人に合った排泄パターンを排泄チェック表を活用して把握し、声掛けや誘導を行っている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を服用している入居者も多く、記録及び状態観察で医師と相談しながら服薬の調整も行っている。運動が大切という認識から毎日テレビ体操を行っている。食事については栄養士の考えた繊維質の多い食材になっているので職員は水分摂取が十分摂れているかの確認をしている。		

自己	外部	項目 ( 花梨 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は固定(月・火・木・金)しているが、希望すれば毎日でも入浴可能で本人の希望する時間に入浴できるようにしている。入浴したくない人には時間を変えたり、職員の交代、言葉かけを工夫している。入居者の状態に合わせて清拭・シャワー浴・足浴など個々に応じた支援もしている。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少しでも安眠が得られるようにと日中の活動を重要視している。一人ひとりのペースも大切にしながら夜の入床については一律にはしていない。ベットメイクも毎日実施しており、清潔・整頓を心掛けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診・受診介助の際薬も合わせて施設職員が気づかっており、管理・服薬介助も実施している。薬情も一括してファイリングしており、都度確認するようにしている。変更があった場合などには副作用など注意点を申し送りで伝達することになっている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の大切さとして、お盆拭き・掃除・手すり拭き・ゴミだし・ゴミ箱作り・食卓拭き・洗濯物畳みなどを日常の共同生活の役割として実践している。楽しみ事としては裁縫や編物・貼り絵・パズル・ゲーム等を楽しめる様に心掛けている。季節感を大切に季節に合った行事も企画している。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍によりなかなか以前のように外出をするのが難しく、実施する事が出来ていない。		

自己	外部	項目 ( 花梨 )	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、日用品の買い物に出かけることがなくなっており、お金を使える機会が減っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時やご家族からのあった際は、本人と家族の関係が保てる橋渡しとして支援している。手紙については年賀状のやり取りを勧め、直筆でできる人には付き添いながら作成している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付け、入居者と作った壁面飾りや写真を貼っている。また生活の場としての共用の場所は安全で使いやすいように配置や張り紙などを行っている。室温・換気については常に意識し入居者に居心地よく過ごしていただけるように配慮している。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係には特に配慮して、テーブルの配置・席替えなども行っている。会話が弾む相性などの人間関係が一定でないこともあるため、ユニット会議の際に職員からの意見を反映させている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・家族のご意向も参考にしながら入居者それぞれが落ち着ける部屋作りをしている。思い出の品を持ち込んだり、逆に極力少なくして混乱を避ける工夫をして、一人一人の部屋作りをしている。		



自己	外部	項目（ 花梨 ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した共同生活が少しでもできる環境づくりには配慮している。障害物や混乱を招くものは極力視覚外に排除し、一人でもトイレに行ける・自分の部屋に戻ることができる等、分かりやすい生活環境を作ることを心掛けている。		

(様式2)

## 2 目標達成計画

事業所名 グループホームあかつき防府

作成日 令和5年5月12日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	コロナにて運営推進会議の開催は出来ておらず参加者には文章発送にてお知らせや、現状報告等を行っているのみ。	・グループホーム独自の運営推進会議開催。 ・また、文章発送の場合には参加者から意見が聞ける様に工夫する。	・上司とグループホーム独自の開催や日時の検討する。その上で参加者(行政、地域、御家族)への声掛けを行う。 ・文章発送の場合、意見書を付け加え参加者の意見を募る。	今期中
2	35	応急手当、初期訓練の研修を実施しているが職員の実践力が明瞭化出来ていない。	・応急手当、初期訓練の実践力を明瞭にする為に数値化する。	・看護師と検討し様式を作成し研修時に実践形式で達成状況が判るようにする。	今期中
3	36	災害時等の避難時の地域との協力体制が出来ていない。	・災害時等に地域による協力体制の構築とBCPの作成。	・運営推進会議で議題として取り上げ自治会や民生委員とお互いの避難方法や避難場所、協力が必要とする所を話合う。その上で地域での災害時の避難など把握し緊急連絡網等を作成し体制作りを行う。	今期中
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。